

事業活動温暖化対策計画書 兼 実施状況等報告書

1 事業者等の概要

氏名又は名称	株式会社 都筑製作所					
代表者名	氏名	栗田 有樹	役職名	代表取締役社長		
主たる事務所の所在地	長野県埴科郡坂城町坂城6649-1					
主たる事業の分類	大分類	E 製造業				
	中分類	3 1 輸送用機械器具製造業				
主たる事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・四輪車、二輪車及び船外機の機能部品の製造 (足回り重要保安部品、高精度ミッション部品) ・建設機械用の各種油圧機器、エンジン部品の製造及び機能保証 ・航空・宇宙産業用部品の製造 					
制度に該当する要件	<input checked="" type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第1号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第1号及び条例施行規則第4条第2項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	条例第12条第1項第2号に該当する事業者				
	<input type="checkbox"/>	上記以外（任意提出）の事業者				
		基準年度実績	最終年度の目標	第一年度報告	第二年度報告	第三年度報告
原油換算エネルギー使用量	k1	3,706	3,794	3,989	4,156	4,244
エネルギー起源二酸化炭素排出量	t-CO ₂	6,715	6,874	7,502	7,762	7,961
その他ガス排出量合計	t-CO ₂	0		0	0	0
自動車の台数	台	22		21	21	20
自動車からの排気ガス合計	t-CO ₂	46				

2 基準年度、計画期間及び報告対象年度

基準年度	2019	年度
------	------	----

計画期間	2020 年度～	2022 年度
------	----------	---------

報告対象年度	2022	年度
--------	------	----

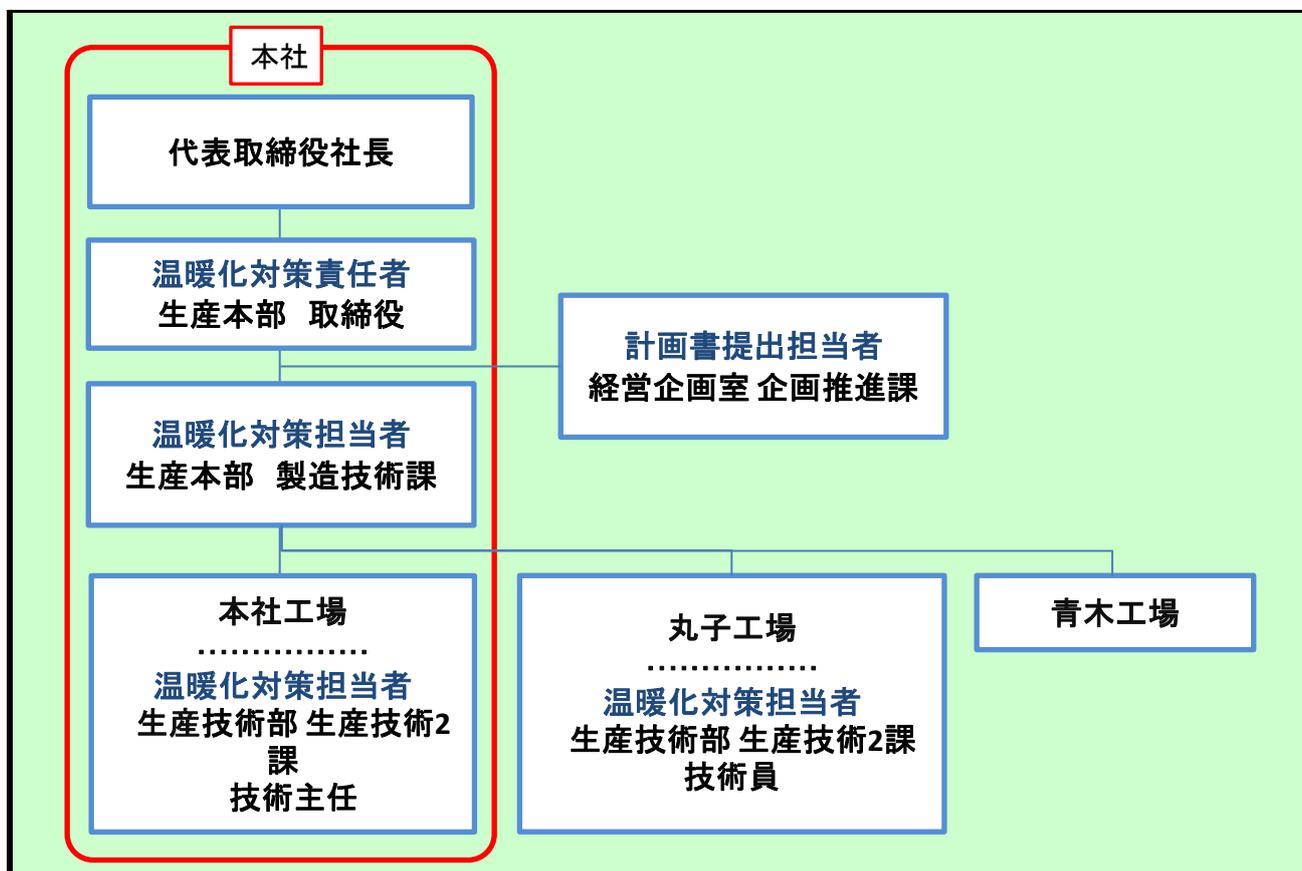
3 計画書（報告書）の公表方法等

<input type="checkbox"/>	ホームページ	閲覧可能時間：月曜日～金曜日 8:30～17:00 部署：経営企画室 TEL：0268-82-0821
<input checked="" type="checkbox"/>	印刷物の閲覧	
<input type="checkbox"/>	その他	

4 温室効果ガス排出抑制のための基本方針

当社の環境方針に基づき、地球温暖化防止と地域の環境保全、及び汚染の防止に努める。

5の1 温室効果ガス排出抑制のための組織体制



5の2 温室効果ガス排出抑制のための会議体等の名称及び開催頻度

月次報告会 (月1回)
各課のKPI (評価指標) に基づいた活動の一部としてCO2削減施策の実施状況を報告

様式1号
(総括票)

6の1 エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	6,715	t-CO ₂	付加価値	4,483.59	単位	百万円
2019年度	調整後排出量	6,715	t-CO ₂	基準原単位	1.50	t-CO ₂ /	百万円
目標年度	目標排出量	6,874	t-CO ₂	目標原単位	1.46	t-CO ₂ /	百万円
2022年度	目標削減率	-2.37	%	目標削減率	3.00	%	
目標設定に関する説明	当社は、付加価値を指標としたCO2原単位を、対前年度比1%削減を目標値に設定し活動する。						
第一年度	排出量	7,502	t-CO ₂	付加価値	4,483.58	単位	百万円
	削減率	-11.73	%	原単位	1.67	t-CO ₂ /	百万円
2020年度	調整後排出量	7,502	t-CO ₂	原単位削減率	-11.34	%	
	削減率	-11.73	%				
排出量等の増減理由	①仕事量変動に応じた効率的な生産、使用エネルギーの抑制が出来なかった 段取りロス、断片稼働による生産ロス、局所連続稼働工程への24時間エア供給など。 ②丸子工場空調用LPG使用量増加 丸子工場の空調（GHP）は2019年7月から本格稼働しており、年間を通して利用していた2020年と比較すると稼働日数が少なかった。また導入時は使用控えも見受けられた（電力監視システムで確認）。また、下期より建設機械部品の生産増に伴う24時間空調使用の職場が発生したことや例年より厳冬だったことにより空調使用が増加した。更には、新工場建設、工場の再稼働なども空調エネルギー増加の原因となった。						
第二年度	排出量	7,762	t-CO ₂	付加価値	5,322.87	単位	百万円
	削減率	-15.60	%	原単位	1.46	t-CO ₂ /	百万円
2021年度	調整後排出量	7,526	t-CO ₂	原単位削減率	2.66	%	
	削減率	-12.08	%				
排出量等の増減理由	・建機の仕事が回復し付加価値が改善したことにより、原単位が改善した。 ・仕事量の増加に伴い、生産設備及び工場空調の使用エネルギーも増加した他、2020/12月に竣工した丸子新工場で、大規模生産ラインを立上げ中。付加価値を伴わない設備・空調エネルギーが発生中で、排出量が増加している。 ・同新工場に設置した丸子工場太陽光発電（450KW）が、基準年総排出量の約3.7%発電したが、他の増加要素が大きく全体としては排出量は増加している。						
第三年度	排出量	7,961	t-CO ₂	付加価値	5,363.72	単位	百万円
	削減率	-18.56	t-CO ₂	原単位	1.48	t-CO ₂ /	百万円
2022年度	調整後排出量	7,544	t-CO ₂	原単位削減率	1.33	%	
	削減率	-12.35	%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由	仕事量（付加価値）の状況はほぼ前年横ばい、排出量が微増となった。排出量増の最大の要素は、本社2工場の生産を2020年竣工の丸子新工場へ移管する大規模計画が中間期に入り、同じ付加価値を得る為に2つの工場で生産（照明・空調・圧縮エア）エネルギーを消費する過渡期に入った為。これは2023年度にピークを迎え、以降は徐々に平常化していく予定。また、他の要因としては昨今の気候変動による中間期の空調稼働率上昇。新規受注の立上げエネルギーの増加。が上げられる						

様式1号
(総括票)

6の2 エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	0	t-CO ₂			単位	
2019年度	調整後排出量		t-CO ₂	基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量	0	t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量	0	t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量	0	t-CO ₂			単位	
	削減率		%	原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	調整後排出量		t-CO ₂	原単位削減率		%	
	削減率		%				
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

様式1号
(総括票)

6の3 自動車の使用に伴う二酸化炭素の排出抑制に係る目標及び実績

基準年度	基準排出量	46	t-CO ₂			単位	
2019年度				基準原単位		t-CO ₂ /	
目標年度	目標排出量		t-CO ₂	目標原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	目標削減率		%	目標削減率		%	
目標設定に関する説明							
第一年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2020年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第二年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2021年度	削減率		%	原単位削減率		%	
排出量等の増減理由							
第三年度	排出量		t-CO ₂			単位	
				原単位		t-CO ₂ /	
2022年度	削減率		%	原単位削減率		%	
目標の達成状況及び排出量の増減理由							

7 重点対策の実施状況

段階	番号	対策名称	基準年度	実施予定	第一年度	第二年度	第三年度	備考
I～II	I-1	燃料使用量等の定期的な把握						
	I-2	エコドライブの励行						
III	III-1	次世代自動車の導入計画						
IV	IV-1	次世代自動車の導入						

様式1号
(総括票)

8 排出抑制目標達成のための具体的な措置

番号	区分	区分 番号	対策内容	計画		状況	
				実施予定 年度	削減見込量 (t-CO ₂)	実施 年度	推計削減量 (t-CO ₂)
1	エネ起	310500	5MX工程内不良削減によるロス電力削減(本製1)	2020	3.33	2020	0.867
2	エネ起	310500	日々完結率向上による休日出勤の抑制(本製2)	2020	5.82	2020	1.005
3	エネ起	310500	PPC洗浄機稼働日削減(本製3)	2020	3.33	2020	2.267
4	エネ起	310500	設備集約による電力削減(青木)	2020	5	2020	6.041
5	エネ起	310500	ファンモータベンチ脱DTS化(CT短縮)の推進(丸製2)	2020	8.32	2020	11.151
6	エネ起	310500	省エネ設備導入効果(超硬金型研削設備)(試作技術)	2020	3.89	2020	1.997
7	エネ起	380752	丸子第3工場・下屋 蛍光灯のLED化(管理部)	2020	7.76	2020	3.930
8	エネ起	310500	ミホポンプベンチCT短縮による電力削減(丸製2)			2022	125.17
9	エネ起	310500	ショートナックルライン稼働率向上による電力削減(丸製1)			2022	57.95
10	エネ起	360703	コンプレッサ-休日停止による電力削減			2022	26.67

9 自然エネルギー源利用設備等の導入計画及び状況

機器の種類	単位	基準年度	導入計画	第一年度	第二年度	第三年度
太陽光発電システム	kW	42	500	492	492	492

様式1号
(総括票)

10 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出実績 (所、t-CO₂)

工場等の規模 (原油換算エネルギー使用量)	基準年度		第一年度		第二年度		第三年度	
	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量	工場等数	排出量
3,000k1以上	0	0	0	0	0	0	0	0
1,500k1以上 3,000k1未満	2	6,492	2	6,870	2	7,423	1	5,078
1,500k1未満	1	223	1	632	1	339	2	2,883
合計	3	6,715	3	7,502	3	7,762	3	7,961

11 県内の工場等におけるエネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出実績 (t-CO₂)

ガスの種類	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
非エネルギー起源 CO ₂	0	0	0	0
CH ₄	0	0	0	0
N ₂ O	0	0	0	0
HFC	0	0	0	0
PFC	0	0	0	0
SF ₆	0	0	0	0
NF ₃	0	0	0	0
合計	0	0	0	0

12 次世代車使用台数等の導入状況 (台)

自動車種別	基準年度	第一年度	第二年度	第三年度
プラグイン・ハイブリッド自動車	1	1	1	0
電気自動車	0	0	0	0
燃料電池自動車	0	0	0	0
クリーンディーゼル自動車	0	0	0	0
その他 (ハイブリッド等)	9	9	9	10
合計	10	10	10	10
自動車総数	22	21	21	20
次世代車導入割合	45.5	47.6	47.6	50

様式1号
(総括票)

1.3 交通対策状況

区分	実施内容
公共交通機関の利用促進	なし
自転車の利用促進	なし
来客者の交通対策	なし
物流の合理化	工場間のトラック運送ルート最適化

1.4 環境配慮活動状況

環境配慮活動	活動内容の詳細		実施年度
	実施内容		
<input type="checkbox"/> SDGs	長野県SDGs登録制度へ登録している		
<input checked="" type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム	環境マネジメントシステムを導入している		本社：1999年 丸子：2008年 青木：2011年
	名称	ISO14001	
<input type="checkbox"/> TCFD提言	気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）支持を表明している		
<input type="checkbox"/> グリーンボンド	グリーンボンドを発行している		
<input type="checkbox"/> ESG投資	ESG対話プラットフォームに登録している		
<input type="checkbox"/> SBT	SBTを策定済、またはコミットしている		
<input type="checkbox"/> RE100	<input type="checkbox"/>	RE100にコミットしている	
	<input type="checkbox"/>	再エネ100宣言RE Actionへ参加している	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	CDP質問書への回答（サプライチェーンプログラム）		2018～

1.5 自由記載欄

<ul style="list-style-type: none"> ・酸アルカリ中和槽への注水量削減（稼働状況に応じた調整を行った） ・取引先の当社への納品回数の削減によるCO2削減（ライフサイクル視点での取組み） ・本社工場エアコン設定温度見直し・管理徹底 ・本社コンプレッサー吐出圧低減計画開始（P:2022年,D:2023・24年,C:2024・25年,A:2025年） ・低効率のエアコン更新（2022年4台,2023年2台予定,2024年2台予定） ・雨水利用による上水使用量削減 ・長野県植樹祭への協賛 ・廃液蒸留システム導入による水溶性廃液排出量削減 ・MRS（濾過再生処理機）による水溶性廃液の再利用 ・CO2フリー電力購入 ・丸子太陽光発電（PCS出力450KW）導入・稼働開始2020年～ ・丸子太陽光発電（PCS出力400KW）増設・稼働開始2023年～
